

Afternoon Music

William Gillock
2021.10.1 No.87

<https://www.gillock.jp/>

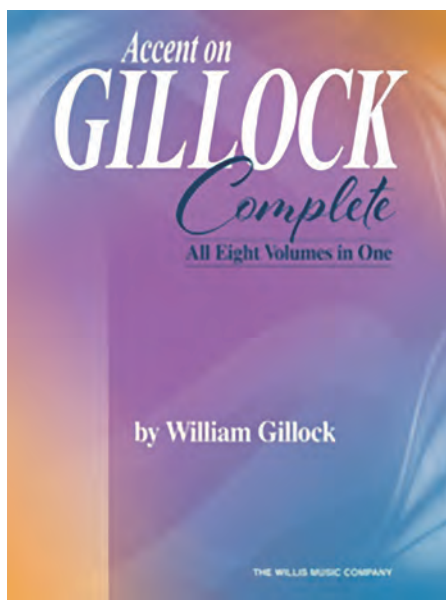
<http://www.facebook.com/GillockAssociationOfJapan>

日本ギロック協会会報[アフタヌーン・ミュージック]第87号

©William Gillock Association of Japan

Wills社より新刊!

アクセント・オン・ギロックcomplete(全8巻)



(全8巻)曲目: Adagio Esotico

/Arabesque Sentimentale/ Ariel (A Forest Sprite)/ At The Ballet/ Autumn Is Here/Baghdad/ Barcarolle/ Blue Mood/ By A Sylvan Lake/ Capriccietto /Carnival in Rio/ Castanets/ Clowns/ Dusk On The Bayou/ Fiesta/ Flamenco/ Fog At Sea/ Fountain In The Rain/ French Doll/ Fur Elise/ German Dance/ The Glass Slipper/ Goldfish/ Happy Holiday/ Harlequin/ The Haunted Tree/ In Old Vienna/

The Juggler/ Last Spring/ Lazy Bayou/ Little Suite In Baroque Style/ Mission Bells/ Moonlight/ A Music Box Waltz/ My Toy Duck/ Night Serenade/ Old Homestead Portrait Of Paris/ Pow Wow promenade/ The Prowling Pussy Cat/ Sarabande /Sevilla/ Sleighbells In The Snow/ Tarantella/ Tom Toms/ Toyland/ Valse Triste/ Viennese/ Rondo/ Village Dance/ A Wood

アメリカ版「アクセント・オン・ギロック」が1冊にまとめられて「Accent on Gillock Complete」として出版されました。日本では「ピアノ・ピース・コレクション」1巻、2巻として出版されています。イギリスのピアノ教育界でも素晴らしい評価を得ています。(記/安田裕子)

『第1巻の作品集はイギリスでの演奏グレードでは、レベル1程度にあたりますが、このレベルの演奏されるいくつかの教本や課題曲よりも、かなりの音楽的な特色があります。

ギロックは大胆にも、既存の教本から離れて、ピアノの音域全体を使う、

手の交差、調号よりも臨時記号を用いて異国情緒たっぷりの半音階パッセージをよく使いました。

ギロックの与えた功績は、楽しいメロディー、遊び心、そして、音楽を学ぶすべての年齢層に音楽への興味を持たせることであり、第1巻に続く第2巻から第8巻までの7冊に、その楽しみは余すところなく盛り込まれています。もはや、その曲集の中の、特定の1曲を賞賛することは重要ではなく、ここに収められた51作品すべてにギロックの特色がはっきりと表されて、どの曲も楽しめます。

特別な機会である課題曲として、ギロック作品とたまたま出会ったとしても、それは素晴らしい最高のピアノ作品と多く出会えて、発見出来たということです。若い生徒たちは、作品集と共にピアノの勉強を進めていくことによって、私は生徒たちがきっと幸せになれると信じています。私は、彼らがまた、驚くべきスピードと自信を身につけて、進歩していくことにも気づいています!』

(記/Andrew Eales Pianodao website is copyright 2015-2021)

編集部からのお知らせ

会員の皆さまには、会報86号にて、協会ホームページのリニューアルをお知らせしました。今後は、会報とホームページを併せて、協会や各支部からの情報をスムーズに受け取って頂けるようになりました。支部で作成しているブログやFacebookなどは随時更新中です。友の会活動の最新情報、協会主催のイベント情報、動画の投稿サイトなど、ぜひご活用ください。

なお、2022年度より、会報発行が年3回となります。

ホームページ 日本ギロック協会

<http://www.gillock.jp/>



グレンダ・オースティン



「カリプソ・チャチャチャ」 「3つのジャズ組曲」

7月15日発行

10月15日発行予定

(いずれも全音楽譜出版社)

新刊2冊登場！グレンダさんインタビュー

安田裕子：グレンダは曲を書く時、まず一番初めに何を考えて書きはじめますか？コード進行とか？

グレンダ・オースティン：とんでもない、私が曲を書くときは、まずピアノの前に座り弾き始めます。そして弾いているうちに曲が出来上がってきます。私が子どもの頃の先生は耳で弾くことを勧めてくれました。家で練習している時も、母が「ここに何か加えてごらん！ Add something!」、いつも即興で曲を展開させるようにアドバイスしてくれました。だから、私が毎週 you tube にアップしているピアノのライブも、楽譜なしで覚えているメロディーに伴奏をつけて弾いています。

安田裕子：へえ～、そんなことが出来たらいいな～！私は耳で弾かず楽譜をじっくり見て練習するように言われました。

グレンダ：アメリカでもそういう先生が多いですよ。生徒が楽譜を読まなくなってしまうから。でも私は耳で弾くことを勧めます。特にサルサやジャズをカッコよく弾くコツは、まず演奏を聞いて、そして楽譜を読んで音出しをしてみる。そして、また、演奏を聞いてリズムや間の取り方を真似てみるとか。私は楽譜も読めるようになりましたから大丈夫ですよ！（笑）



弾いてみた！「カリプソ・チャチャチャ」【堺支部】

この曲集はグレンダ・オースティンの「Feel the Beat」と「Sizzlin' salsa」の2冊の曲集から曲を選び1冊にまとめたものです。前半5曲はリズムの楽しい曲、後半7曲はラテンのリズム満載の曲からなっています。

まずは1曲目「シンク・イット」弾いていると自然にスイングしてしまいます。慣れてきたらスイングしても楽しいですね。2曲目「君とハッピー」いきなりノリが難しいリズムの出現にうろたえますが、後打ち手拍子でノってしまいましょう。この曲はラテンのリズム。3曲目「ジャイブを踊ろう」堂々とスイングして軽快なステップで。ウォーキングベースの右手の刻みはフォーンのイメージ。4曲目「ボンゴ・ビート」楽譜どおりに弾くとモサッとした曲になってしまいます。心の中でボンゴを叩くのをお忘れしないで！5曲目「グッバイ・サマー・ブルース」8月の終わりにピッタリな曲。「暑いなあ～」「学校始まるのいややなあ～」「宿題残ってるのどうしよう～」ああああ～な気分だけでだるく弾けばブルースの気分ぴたりフィット。間違えても元気よくはつらつと弾いてはいけません（笑）。

さて後半はあなたも踊れるラテンのリズム！6曲目「カリブ海クルージング」楽譜どおり弾くとこれも？となります。弾きながら頭の中でたくさんのパーカッションをならしてみましょ。特にギロなんかはオススメです。7曲目「セント・トーマスのカーニバル」オープニングのリズムに思わずうおっ！となってしまうのですが、まずはゆっくり4拍数えながらリズムをマスターしましょう。アゴゴベルのような鐘の響きが聞こえてきそうです。ぜひ「うっ！」を入れて弾いてみてくださいね。8曲目「メキシカン・フィエスタ」ホットなサルサ、そしてとてもラテンっぽいメロディーラインの曲です。踊りたい、そしてマラカスなどの打楽器を入れて弾いてみたい曲です。9曲目「うららかピギン」ちょっと懐かしい映画音楽のイメージ。10曲目「ジャマイカのタバ」オステナートな左手の伴奏がクールダウンしてくれます。ホッとしたいひと時にお勧め。11曲目「カリプソ・チャチャチャ」オープニングの印象的なチャチャチャのリズムはアクセントのついている音をしっかりとリズムカルに弾けます。そのリズムを忘れないで最後まで行きましょ。12曲目「リオ・ルンバ」ん！聴いたことあるぞ、な、イントロから始まる曲。調子に乗って弾くとメロディーから外れていくので注意しましょ（笑）チャチャチャやサルサのステップを試してみるのもよし、打楽器をいれてアンサンブルするのも楽しいでしょうね。

（記 / 松原佳弥）





wakuwaku

ピアノフェスティバルご報告

昨年に引き続き開催しましたwakuwakuピアノフェスティバルはソロ部門で226曲、連弾部門で60曲のエントリーがありました。会員の皆様の多くのご参加に感謝いたします。ありがとうございました。

10月31日のハロウィンに開催されるwakuwakuピアノフェスティバルアワードに向けてただいま準備の真っ最中です。なお、アワードは一般公開いたしません。アワードのダイジェスト版はホームページでも公開を検討しています。

MEFO2021wakuwaku
ピアノフェスティバル実行委員会

Facebookを活用して 【大阪支部】

4月26日、堺支部が池田奈生子さんセミナーを予定していましたが、このコロナ禍で中止となり、オンラインでの開催となり、大阪支部もそれに参加させて頂きました。

そこで、池田奈生子さんの「DAY AT THE FAIR」より1曲ごとに、コメントを頂き、更に曲に対しての理解が深まりました。大阪支部としましては、フェイスブック（FB）を利用して、6月の定例会より、演奏を配信していこうということになりました。6月は「DAY AT THE FAIR」の中から、「ベガサスに乗って」「ジョッキー・ジャグラー」「アイスクリーム・タイム」の3曲を、7月には「あるスターのお話」「バンパーカーは大混乱」「リトル・フラメンコ・ダンサー」「サヨナラの時間」の4曲をアップしました。いつの日か、従来のギロックフェスティバル・ギロックオリンピックの開催が出来ることを心より願ひ、楽しみにしています。

9月からは、「ジャズスタイル・ピアノ曲集[連弾]1～3」をFBにアップしていく予定です。この時期でも、出来る限りの努力をして、ホールでの

発表会や、野外ライブを開催していません。ギロックの曲も数多く選曲されます。生徒さんや、保護者の皆さまから、「ギロックの曲集を弾いていて、今までより音楽が大好きになり、楽しくてたまりません」と、お声を頂きました。大変、嬉しい限りです。ギロック、ありがとう！

(記/雄崎民子・野村啓子)

少しずつ動き出した 自粛生活2年目の夏 【仙台支部】

例年より早い梅雨明けで、厳しい暑さの夏休みでした。その中で、メンバーの一人が学生時代のお仲間と開いたコンサートがありました。勉強を継続し高めあう姿勢に刺激を受け、自宅でのピアノに向かう励みになりました。

8月27日から宮城県にも緊急事態宣言が発令されました。公共施設の利用にも制限が加わり、今後の活動にも影響が出ると予想されます。

会報ではオンラインをうまく活用している支部の様子を拝見していますが、仙台では回数を減らしながらも対面での定例会を続けてきました。しかし定例会になかなか出席できない場合もあり苦慮していたところ、オンライン勉強会を主催するメンバーからの提案がありました。顔を合わせる機会が増えるのは有難いことで、早速「ギロ友通信」で受講をお勧めしました。発想や活動が多岐にわたるメンバーのおかげで、少しずつ動き出した 自粛生活2年目の夏でした。(記/小野寺朋子)

叙情小曲集を勉強中 【京都支部】

最近の京都支部の活動は、拠点が十字屋三条本店に変わり、ベーゼンドルファーを使っての定例会となっています。今勉強しているのは「叙情小曲集」、コロナ禍で参加しにくいメンバーもいますが、各自、課題曲を録画しYouTube上で聴きあうという形をとっています。(記/高橋久美子)

ハイブリッド定例会を実現！ 【愛媛支部】

愛媛支部は、ネット環境と音響設備が充実しているスタジオサクラメントにて、対面参加5名とZoom参加4～5名が同時に行うハイブリッド定例会を行いました。新居浜、今治、松山がオンラインでつながりました。

アクセントオン1から「マズルカ」についてそれぞれが調べて分析したことを発表して、弾き合いました。そして、WakuWakuピアノフェスティバルの課題曲の楽譜を全部スタジオに持ってきて、対面参加組がリクエストにこたえながら演奏しました。Zoomで参加した会員からもピアノの音がすごく良かったと大好評でした。

今年も厳しい状況の中ですが、ギロックの音楽から勇気をいただきながら、できることを見つけて活動していきたいと思ひます。オンライン交流会もしてみたいです。よろしくお祈りします♪

お知らせ・・・愛媛支部はこのたび、Facebookページを立ち上げました。7月4日にハイブリッド定例会を行った様子を載せています。協会HPのリンクからご覧いただき、ぜひ、いいねを押していただければ嬉しいです！どうぞよろしくお祈りします。

(記/鍵矢知佳)



◆セオリーオールザウェイ◆ 小冊子販売中



各種テキストをレッスンで使っている先生にも、併用ドリルとして使えると思ひますので、ご興味のある方は枚方支部の杉野までお問合せください。(1冊1000円)





意外と気になる、隣の定例会☆パートⅠ 「のぼっておりてキーボード」 オリジナルの連弾パート譜を作ってみる！



のぼっておりてキーボード

のぼっておりてキーボード

のぼっておりてキーボード

のぼっておりてキーボード

のぼっておりてキーボード (連弾)

のぼっておりてキーボード

のぼっておりてキーボード

昨年からのコロナ禍で、各支部の定例会はオンラインに切り替わり、支部によってはやむなく中止、しばらく休止という話も耳にしました。感染症対策万全に、フィジカルディスタンスをキープしながら定例会を続けている支部もあります。いずれにしても、今まで通りということがひとつもなく、不便な状況に変わりはありません。一日も早く、再びみんなで集まってピアノを囲み、楽しくわいわい賑やかに、ギロックの曲を学べる日が来ることを願います。

さて、新コーナー！他の支部ではどんなことを学んでいるのかな？という素朴な疑問にお答えしようという、

「隣の定例会☆」今回は堺支部の皆さんによる、ギロックのソロ作品を「連弾にしてみました！！」をご紹介します。

「はじめてのギロック」に収められている「のぼっておりてキーボード」。多くの教室で、初めてギロックを弾ききっかけになる作品ではないでしょうか？堺支部では、コロナ渦前の定例会になります。皆さんがそれぞれオリジナルの連弾パートを作成して、アンサンブルを楽しんだとのこと。レッスンのヒントにもなりそうです！

堺支部からたくさんの貴重なオリジナル連弾パート楽譜を送って頂きましたが、小さすぎてすみません(T_T)詳細は堺支部へお問い合わせください。

◆このコーナーに登場して下さる支部を募集中です～◆

インタビュー アダム・グーレットさん(ギター奏者)

『熱心な聴衆に、私の演奏は育てられる』



アダム・グーレットさん



安田裕子（以下H）：アダムは、私がピアノを教えている音楽教室で、ギターの教師をしており、10年来の教師仲間です。私が教室で教え始めた頃、誰とも話をせず一人ぼっちだったのですが、彼は親切に話しかけてくれて、とても嬉しかったのを覚えています。

モントリオールでは2020年の3月からコロナ禍のため1年半、様々な催し事が完全にストップしていたので、私はすっかりライブのコンサートに飢えていました。2021年の春になってやっと、少しずつ段階を踏んで世の中がオープンになってきました。

催し事が徐々に解禁になり、アダムはすぐに小規模のコンサートをサロンで3回開きました。2メートル以上の距離を取り、マスクをつけて、少人数での開催、なんて贅沢なコンサートなのでしょう！第1部はクラシックギター、第2部はアダムのオリジナルソングというプログラムでした。

彼のギターはよく聴きに行っていました。今回はとても感銘を受けました。今までと違うのです。第1部のクラシックギターはとても平和で安心して聴けて、どんどん惹きつけられました。

第2部のオリジナルソングでは、とってもフレッシュな気分になりました。正直言って、彼のコンサートは特徴があるとか言うのではなく、それなりのテクニックでそれなりに演奏して、「ああ良かったね」と言う感じでした。演奏を聴いて今回のように、彼の演奏に彼の人間性を見ている気がしたのは、初めてでした。私は、彼が自分自身を見つけたのだなと思い、これはどんなミュージシャンにとっても大切なこと

だと思いました。ぜひアダムに話を聞いてみたいと思いました。

アダム、こんにちは！コロナが大流行で、ロックダウン中、いつサロンコンサートをしようと思いついたのですか？

～コロナ禍でも コンサートを計画～

アダム・グーレットさん（以下A）：今年の4月に思いつきました。バンドのサイドマンとしてはオンラインコンサートにもいくつか出ていますが、およそ1年間のロックダウンの後、自分の音楽を取り戻すために刺激が必要だと思ったのです。そのために、数回のコンサート開催を予定してしまうのが一番いい方法だと思ったのです。

ラ・カソナ（サロン）は、ソーシャル・ディスタンスを保っても楽に40名は入れる会場です。活動開始の許可が出ると、ラ・カソナは同時に小さなコンサートの企画を始めました。クラシックかフォークのコンサートなら開催可能でしたので応募しました。

私はライブコンサートで演奏したくてしようがありませんでした。ロックダウン中なので、ダンスもアルコール類もダメという条件の上、ほんの少しの観客の前だけでしか演奏できません。しかしこれは、クラシックのコンサ

トをする絶好のチャンスだとひらめき、チャレンジしようと決めたのです。以前から気になっていた数曲のクラシックギターの作品を学び、完成させる良い機会でもありました。オリジナルの作品のレパートリーも数多く持っているのですが、それらの作品も中途半端な箇所、気にいらぬ部分など、納得がいくまで取り組み、完成させる良い機会でもありました。そして、クラシックギターとオリジナルソングでハイブリッド（両方が楽しめる）コンサートを計画したのです。

H：今回のアダムの演奏は、伝えたいことが内側から自然にわき出てくるようでした。アダムが正直に心を開いて聴衆に語りかけてくれたので、私たちも、とてもリラックスして聴けたのだと思います。ご自分で、何か変化があったと思われましたか？ロックダウンの間に、何か今までとは違ったことを経験されましたか？

A：私は一人であるのが好きで、一人の時間を多く過ごすことに慣れていました。しかしロックダウンが長く続くと立ち始め、なぜか一人であることに耐えられなくなってしまいました。また、私は、たまには人と一緒に過ごすのも大好きですが、人と会うことの出来ない状況になると、物事がなんでも悪い方へと動いてしまいました。だから友達と一緒に外へ散歩に出る、あるいは長電話をすることで、この時期を乗り越えることが出来ました。

ロックダウンの間、今まで以上にメディテーション（瞑想）をし、よく物事を考えることもしました。ギターの練習もたくさんしました。コロナ禍に

よる隔離は、これらのこととじっくり取り組むための特別な期間でした。私は長年、多くのバンドのサイドマン(伴奏楽器の演奏者)としてギターを弾き、バックコーラスを歌い、ときには金管楽器や歌の編曲をしました。同時に、ソロ奏者として、自分の個性を大切に自分自身の音楽、歌に楽器、即興演奏なども取り組みました。ソロと伴奏、どちらの活動も発展させてきた、これらの経験は私にとって、とても大きな部分を占めています。

～聴衆の耳で 自分の演奏を聴く～

H：いろいろなライブ活動の経験が、ロックダウンと言う特殊な時間に温められ、大きな花が開いたのでしょね。どのようなバンドで演奏していたのですか？

A：現在はモンテリオールのアーティストと一緒に演奏しています。レイチェル・テリン、ティンバ・MM、プガット、アカウィと言った人たちですが、私は今までに、ジャズからサルサ、リズム&ブルースにポップスといった色々なバンドと演奏しました。世界を回る船でも演奏したり、ネエマというアーティストといっしょにヨーロッパへもコンサートツアーに出かけました。

私にとってコンサートの始めから終わりまで聴いてくれる聴衆の前で演奏するのと、社交の場で話をしたりお酒を飲んだりする場の演奏は全く違います。どちらも好きですが、熱心に聴いてくださる聴衆に私の演奏は育てられると思っています。この両面を備えた面白いイベントがサルサのコンサートなのです。皆さん、ダンスを踊りお話をしたりしていますが、それと同様にとても熱心に演奏に耳を傾けてくれます。それは私たちをととても嬉しい気持ちにさせ、音楽に乗せてくれます。実際、よく、音楽へのアドバイスや評論で、バンドが演奏する音楽は、そこでダンスをする人々によって作られると言われています。ダンサーたちは音楽の流れを察し、それに反応し答えてくれるからです。

H：まさにコミュニケーションですね！練習する時、アダムは何を大切にしていますか？またステージで演奏する時には？

A：練習をするときは、まずどこが自分の好きなパートか、そしてどの部分で自分は惹き込まれていくかを見つめます。そして練習日誌をつけて、何を練習したかを毎回記録していきます。

ステージで演奏するときも、どこで自分は心地よく楽しむことができるかを見つめます。そしてすっばりと音楽の中に入り込んでしまうのと同時に、リスナー(聴衆)の耳で、自分の演奏を聴くようにしています。

H：「同時に、リスナーの耳で～」という言葉に私は強いショックを受けました。私は演奏するとき、「間違えないように上手に弾きたい」という思いが心を占領していることが多いからです。このことは緊張するだけで、自分が楽しむことは後回しになります。音楽に入り込むことはとても大切ですよね。でないと技術を見せるだけになってしまうことが多いですから。

A：全くその通り！聴衆の側に立って聴き演奏すると、心から演奏できるし、魂が宿り、完璧にミスなしで弾くよりも音楽的に演奏できますよ。

H：ところで、今回のコンサートでは、アダムは歌の歌詞をととても明瞭に発音して歌っていましたね！それがとてもフレッシュな印象を与えてくれました。このアイデアはどこからきたのですか？

A：私は歌が大好きです、だから音楽はハーモニー、メロディー、そしてリズムが一つになっているのと同じように、歌は歌詞もそこに加わり一体となって音楽が生まれてきます。もし歌詞がお粗末で聞き取れなかったら、歌を聴く楽しみが半減してしまいます。言葉をはっきり発音すると、そこからおのずとリズムが生まれて音楽に乗り、聴衆の心へストレートに入っていくことができると思います。

H：私たちは音楽の多くの側面を大切にすべきですね。楽器を演奏するとき歌詞があっても無くても歌心が必要ですが、ついつい忘れてしまうことがあります。アダムのギター演奏にはこの歌う経験が役に立っていると思いますか？

A：もちろんです！マイルス・デイヴィスは演奏をするとき、歌詞があってもなくても、その曲の詩を知り、とても大切に演奏しました。その曲を深く解釈し感じることができる上、暗譜をするのにも役に立ちます。

H：ところで、バンドで演奏する魅力とはどういったものでしょうか？

A：バンドメンバーと一緒に演奏するのはとっても気分がいいです。子どもの頃からこのフィーリングが大好きです。チームワークは楽しいですし、グループで演奏すると、特に聴くスキルを磨くことができます。全体像を見ることも必要で、他のミュージシャンが弾くのを自分の演奏以上に聴く必要があります。このことは他の人とコミュニケーションをとって生活しているのと同じことだと思います。まさに人生の縮図です。

H：アダムは教室でも人気のあるギターの先生ですが、教えることで大切にしていることはありますか？

A：ありがとう！私は二つのことをバランスよく教えるように心がけています。

- 1) 生徒の興味を大切にします。
- 2) 基礎を大切にします。

生徒を効率よく指導するための選曲や、組み立てを知っていることはとても大切です。アウトラインをつかんでいないと筋道を見失ってしまいます。自分の音楽を聴衆の立場に立って聴き、感動することと似ていますが、この場合はちょっと抽象的ですが、曲を外から眺めているように思います。

H：インタビューの最後に、アダムはもしギターリストになっていなかったら、何になりたかったですか？

A：ピアニスト！(笑)



MASA先生とHillockのチャットdeギロック！第9回



色彩変化の豊かな「秋が来た」



Hillockこと安田裕子（以下H）：ギロックの秋の曲と言えば、「秋のスケッチ」、そしてもう少し簡単なレベルで「秋が来た」も、とりわけ大人の初心者に根強い人気があります。そこにはどんな秘密があるのか探してみたいと思います。この曲は寂しい感じなのにとてもカラフルですね～、調がくるくる変わって、メロディーの音が変わって。



MASAこと松田昌（以下M）：そうですね～！作曲者が曲にどのような思いを込めたか？安田先生のようにギロック先生に直接レッスンを受けられた方はとても幸せだと思いますが、普通は、曲のメロディー、コード、構成、転調の仕方などを分析して、曲の魅力を捕まえることが大切だと思います。



H：分析ですね！今回はこのとてもシンプルな譜面で、コード進行の勉強をさせてください！会員の皆さんも、まずご自分でコードの分析をしてみませんか？マサ先生の考えと、自分の分析をすり合わせてみるのも面白いと思います。



M：オオ～！それはとても面白いです。人によって考え方は違いますから。また、これが正しい見方で、この見方は間違っている・・・ということは、あんまり必要ないと思っています。ギロック先生は「へ～！君は、そんな見方をするんだ！思いもなかった。面白いね～！」と言ってくださるに違いありません。



H：マサ先生、コードの勉強をするとき、和音記号で考えるのと、コードネームで考えるのと、両方必要なのですか？同じコードネームでも調が変われば機能が変わりますから。



M：安田先生！いきなり大切なところに入りましたね～！（笑）おっしゃる通りです。例えば、Cコード（ドミソ）は、八長調では音階のⅠ度の和音で役目はトニックですが、ト長調ではⅣ度の和音でサブドミナント、ハ長調ではⅤ度の和音でドミナントになります。コードをつながりどとらえ、それぞれのコードの役割を感じるためには、何調である

かを考え、そして和音記号でのとらえ方がとても大切だと思います。また、和音記号で考えるのは、なんとというか、時間がかかりますから、素早くコードの構成音がイメージできるコードネームは、即興演奏やアレンジのスピードを上げるためにはとても必要な和音のとらえ方だと思います。



H：なるほど、そうなのですね。この曲はA-B-Aの3部形式でできていますが、私の心に響いたのは2ヶ所あります。まず1つ目はAパートの3段目、AmがA7へ進んでいきます。これは機能としてはⅠでいいのですか？こういう移り変わりはどのようにとらえればいいですか？



M：この楽譜はとても見やすく、1段4小節ずつの流れで配置されています。それで、全体が把握しやすいです。まずは、曲全体のコード、調性、和音の度数を考えてみましょう。

Am Am E7 E7 (Im~Im~V7~V7) / E7 E7 Am Am (V7~V7~Im~Im) / A7 A7 Dm Dm (I7~I7~IVm~IVm) / Am E7 Am Am (Im~V7~Im~Im)

★G7 G7 C C (V7~V7~I~I) / E7 E7 Am Am (V7~V7~Im~Im) / E7 E7 Am Am (V7~V7~Im~Im) / Dm B7 E7 E7 (IVm~II7~V7~V7)

★印をつけたBの部分の最初の4小節は八長調で、それ以外はイ短調と考えるといいと思います。

そして、安田先生が「心に響いた」とおっしゃっているA7を、僕はこう理解しています。このA7~Dmの進行は、二短調のV7~Imですから、チラッと二短調に転調しているような色彩変化を感じます。もちろん、この部分も調性はイ短調なのですが、イ短調の中に二短調のドミナント(A7)を借りてきているという意味で「借用和音」とクラシックの和声では説明します。何というか・・・イ短調が日本だとしたら、お隣の韓国へお泊まりはしないで2時間遠足旅行に行っているような感じ？（笑）主和音(Am)でなく副和音(Dm)の前に使われる属7なので「副属7」と呼ばれたり、英語では「セカンダリードミナントセブン」と言われたりします。副属7の音楽的な効果は素晴らしい変化を作ります。イ短調にはない「ド#」が出てきて、大きな変化を作り、低くなったメロディーに出てくる「シb」の音はA7の「b9th」

でキュンキュン度をさらに大きくしています。

それと、和音記号表記についてお話しするときに、みなさんにお伝えしたいことですが、クラシックとポピュラーで書き方が少し違います。例えばイ短調のAmを表記するときには、クラシックでは「I」と書くだけですが、ポピュラーでは「Im」と書いてマイナーコードかメジャーコードかを素早くわかるように書くのが一般的です。



H: MASA先生、もう一つの「胸キュン」の部分は、Bの部分最後の、「Dm B7 E7 E7」の部分ですが、ここはどのように分析されますか？特に、左手の「ファ#」と右手の「ド」のコードの説明をお願いします。



M: なるほど！おっしゃる通り、ここにこの曲1番の和音のドラマがありますね？僕の理解はこうです。

1) この4小節の左手の音はコードの根音ではなく、第3音。1小節目は「ファ」の下に「レ」、2小節目は「ファ#」の下に「レ#」、3小節目は「ソ#」の下に「ミ」のそれぞれ根音が隠れていると思います。

2) そして、一番魅力的な2小節目は、「レ#」（隠されている）、「ファ#」、「ド」だから、コードネームとしては「D#dim」が正解なのですが、この「D#dim」は、その下に「シ」の音が隠されている「B7b9th」のコード・・・つまりイ短調から見ると「II7」いわゆるドッペルドミナントになると思います。それを、こんなに弾きやすく2声に処理しているギロック先生は素晴らしいです。



H: ありがとうございます、とてもよくわかりました！それと最後のV7ですが、ここに出ているのはミソ#シですからVと解釈してもよいのでしょうか？コードネームをつけるとき、ミソ#シの三つの音でも自分がその音の後ろでどんな響きを感じるかで考えるのもよいのでしょうか？



M: ア・・・すみません。ここは、コードネームで言うとE7でなくE、和音記号で言うとV7でなくVが正解です。安田先生！技あり！（柔道の審判用語です。笑）



H: すごく基本的な質問に答えていただきありがとうございました！恥ずかしがらずに質問してもう一回「技あり！」(笑)